

それでもボクはやってない (I Just Didn't Do It)

観賞日 2021年9月13日 上映時間 143分

【概要】

制作 2007年

脚本・監督 周防正行

撮影 栢野直樹

音楽 周防義和

出演 加瀬亮 (金子徹平)、役所広司 (荒川正義)

瀬戸朝香 (須藤莉子)、もたいまさこ (金子豊子)

山本耕史 (斎藤達雄)、鈴木蘭々 (土井陽子)

正名僕蔵 (大森裁判長・最初の裁判長)、小日向文世 (室山裁判長・2番目の裁判長)

尾身としのり (新崎検事)、大森南朋 (山田好二)、光石研 (佐田満)



【あらすじ】

満員の通勤電車内で痴漢事件が起きる。就職の面接を受けるために乗車していた26歳のフリーター、金子徹平は身に覚えのない罪で現行犯逮捕される。一方的に犯人と決めつける警察の対応ぶりに徹平は憤慨し、頑なに無実を主張する。当番弁護士と接見し、事件の詳細を話すのが逆に示談を勧められる。送検、勾留と進みようやく母親の豊子と親友の達雄が面会に現れる。豊子と達雄の尽力で担当となった弁護士の荒川は徹平を励ますが、それでも否認事件の無罪率は3%だという。起訴されて裁判が始まる。同様の痴漢冤罪事件で係争中の被告人、佐田のアドバイスを受けて弁護側も巻き返しを開始。公判も回を重ね、検察側の杜撰な証拠が露呈される。しかし、裁判官が突如変わり法廷の雰囲気も微妙に変わる。裁判の行方を左右すると思われていた唯一の目撃女性が現われて弁護側有利と思われたが、検察の求刑懲役4か月に対し、裁判長が下した判決は・・・。

日本の司法制度の矛盾を鋭く突く迫真の法廷劇。冤罪事件に果敢に斬り込んだ周防正行監督渾身の問題作。

【解説】

■ポイント

●刑事事件の主な流れ

犯罪発生→捜査【警察】→逮捕【警察】→送検【警察→検察】→勾留【検察→裁判所】→起訴【検察→裁判所】→裁判【検察・弁護士】→判決【裁判官】

●周防正行

- ・1956年東京生まれ。立教大学文学部卒業。
- ・「シコふんじゃった」(1991年)、「Shall We ダンス」(1996年)で2度アカデミー監督賞を受賞。夫人は「Shall We ダンス」主演女優の草刈民代
- 音楽担当の周防義和は実弟



●受賞

- ・第31回日本アカデミー賞：11部門でノミネート、3部門で受賞
助演女優賞 (もたいまさこ)、美術賞 (部谷京子)、編集賞 (菊池純一)
- ・第81回キネマ旬報ベストテン：日本映画ベストワン

■見どころ

●浮かび上がる司法の世界の実態、炙り出される問題点

役所広司、正名僕蔵 (モデルは人権派裁判官と呼ばれた木谷明) に語らせる台詞